

注 : 指示があるまで開けないで下さい。

総合防犯設備士資格認定試験

第一次試験(筆記方式)

B 専門問題 (選択)	
出題	4 問中 2 問選択
時間	60 分
配点	1 問 100 点・合計 200 点

受験番号	— —
氏 名	

注意事項

1. 座席は指定されています。受験番号を確認して着席して下さい。
2. 机の上には「受験票」「筆記用具」以外のものは置かないで下さい。
3. **受験番号・氏名は、はっきりと記入して下さい。**
4. 解答は、設問にしたがって記入して下さい。
5. 選択した設問の上部の空欄に○印を付けてください。**3 問以上選択すると無効になります。**
6. 「試験問題」・「解答用紙」は試験終了後すべて回収します。
7. 試験時間内に退席される場合は、試験問題・解答用紙を机の上に置き試験官の許可を得て

静かに退席して下さい。

ただし、試験開始後30分、および試験終了前10分間は退席できません。

退席後、試験会場近辺では、静かにお願いします。

8. 試験会場においては、試験官の指示にしたがって下さい。



<p>選択する場合は右空欄に ○印を付ける。</p>	
--------------------------------	--

B 問題－1（機器関連）

防犯カメラシステムについて、(1)から(3)までの三つの問いに解答せよ。

- (1) 防犯カメラを設置するにあたって、その場所における撮影目的ごとに画角を変える必要がある。VGA画像の防犯カメラにおける各画角の撮影目的と映り込む人物のサイズ、商業施設における主な設置場所を記入例にならって記せ。

画角	目的	サイズ	主な設置場所
画角 A	行動把握	画面のほぼ1/2の高さに人物の全身が映る大きさ	店舗内
画角A25	全体把握		駐車場内
画角B			
画角C			

- (2) 防犯カメラで撮影された個人が特定できる映像情報は、個人情報保護法上の「個人情報」に該当する。防犯カメラの設置及び運用管理について、注意しなければならない点を記せ。

①	防犯カメラにより撮影した映像の利用は、防犯目的に特定し、その目的達成に必要な範囲に限定すること。
②	〈設置〉
③	〈運用管理〉

次頁に続く

- (3) 下記の例文を参考に、次に続く文章の括弧内に当てはまる内容を各解答欄の指示に従って具体的に記せ。ただし、例文内に出てきた設備や機能・効果は繰り返し使用しないこと。

例：

【テレビドアホン】は、それ単体で【玄関を開けることなく来訪者との会話と画像で相手を確認すること】ができる。

電気錠と【テレビドアホン】を連動させることによって、【玄関まで行かずに解錠して、相手を入室させることができる】。

【 ① 】は、それ単体で【 ② 】ができる。

防犯カメラシステムと【 ① 】を連動させることによって、【 ③ 】。

①	防犯機器名を記せ。
②	どのようなことかできるかを記せ。
③	何ができるから、どのような効果が見込めるのかを記せ。

<p>選択する場合は右空欄に ○印を付ける。</p>	
--------------------------------	--

B 問題－2（施工関連）

事務所ビルの 2 階部分に位置し、事務所として使用する予定の部屋に赤外線パッシブ検知器を設置するに当たり、誤報・失報対策なども含めた施工上の留意点を箇条書きで下の解答欄に記せ。

当該部屋は、30mx30mの広さ、共用廊下部に面する部分は、出入口 4 箇所(当該ビルの出入管理システムが設置されている)を除き軽量鋼製間仕切り壁、屋外に面する部分は南向きで全面ガラス窓、他の 2 面はコンクリートブロックの間仕切りで開口部は無く、天井は鋼製天井地下地石膏ボード貼りである。

検知器、警報制御盤及びその間の配線も今回の施工範囲とする。

配線上の 留意点 (5 項目以上 記せ)	
検知器取 付及び調 整に伴う 留意点 (10 項目以上 記せ)	

<p>選択する場合は右空欄に ○印を付ける。</p>	
--------------------------------	--

B 問題－3（警備関連）

1. 警備業法第 2 条では、「警備業とは、他人の需要に応じ、営利の目的をもって警備業務を反復継続して行うことをいう。」としており、警備業務を以下の 4 つの種類に区分している。③の例にならって下表の空欄を埋めよ

①	1号警備		
②	2号警備		
③	3号警備	輸送警備	運搬中の現金、貴金属、美術品等に係る盗難等の事故の発生を警戒し、防止する業務
④	4号警備		

2. 警備業法施行規則第 33 条（書面の交付）

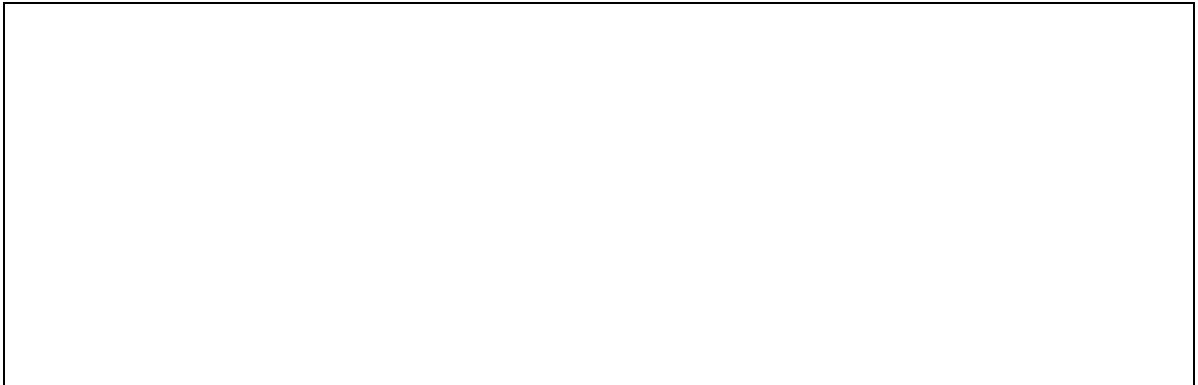
契約前書面・契約後書面の交付義務は顧客保護のため平成 17 年警備業法改正で新設されたが、同条五項の機械警備業務を行う契約の場合に明記しなければならない事項の内容について、イ・ホの例にならって下表の空欄を埋めよ。

イ	基地局及び待機所の所在地
ロ	
ハ	
ニ	
ホ	第一号イからナまでに掲げる事項

次頁に続く

3. 機械警備業について

各都道府県公安委員会規則による機械警備業者の「即応体制の整備の基準」の内容を記せ。



選択する場合は右空欄に ○印を付ける。	
------------------------	--

B問題-4 (設計関連)

第1警戒線から第3警戒線を有する某研究所の防犯システムのうち、出入管理システムを最新設備に更新するため検討することになった。

今回の更新計画では、各警戒線から内部区域への人の出入口部、すなわち、G1-2、G2-3及びG3-4でのゲート装置と出入管理装置(認識装置)の組み合わせとして適すると思われるものを、組み合わせた理由とともに記入例にならって記せ。ただし、記載は入域のみとし退域については省略可とする。また、装置名称は、機能が同じでもメーカーによって異なる場合もあるので日頃使用している名称でよい。

警戒線	ゲート装置	出入管理装置 (認識装置)	組み合わせた理由
G1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー式ゲート ・フルハイト・ターンスタイル 	<ul style="list-style-type: none"> ・非接触 IC カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートは構造的に強く通路も狭いので一人ずつ入退室管理(共連れ防止)できる ・非接触 IC カードと組み合わせることで許可者のみ入域させることができる ・強行突破や共連れなどの不法入域者を阻止できる
G2-3			
G3-4			